

2012-06-15

「地域が子どもを育てる」そんなまちを協同労働で

ここ数年、大きく発展し、社会的にも期待が高まっているワーカーズコープの子育て事業。その基本、方向性をどう定め、「地域が子どもを育てる」社会をどうつくっていくのか。白梅学園大学汐見稔幸学長と労協連永戸祐三理事長が話し合いました。



汐見稔幸さん（白梅学園大学学長）

子どもは地域で放牧され、仕事の世界が豊かにあり、家庭では団欒の時間も。そういうことの積み重ねが…

対
談

永戸祐三さん（労協連理事長）

本当の意味での教育は、人の、日常普段にある営みも含めた、自然界の力から生まれてくるように思う。

「人間を育てる」とは

永戸

2月に開いた「全国子育てフォーラム」では、汐見先生や大田堯先生（東京大学名誉教授）をはじめとした先生方の話を聴くことができ、「地域が子育てをする」とはどういうことかに本格的に挑戦する段階に入ったと感じました。

そこで、ご協力いただいた先生方と子育て現場のリーダーたちが1年くらいかけてとことん議論し、ワーカーズコープの子育て事業の基本、方向性を定め、本当に「地域が子どもを育てる」状況の地域をつくり、子育ての仕事に携わる自分たちがどういう存在になっていったらよいのかを学べるようにしていきたいのです。

汐見

持続的にいろいろなことを相談していければと思います。

永戸

ええ、ぜひ。

汐見

フォーラムの講演では「地域の再生と子育て」というテーマを与えられたのですが、ぼく自身、親に育てられたことは事実でも、「地域のなかで、自分で育った」としか思っていないのです。

地域のあちこちで遊び、いたずらをして怒られた。賽銭泥棒をして連れて行かれたこともあります。いけないことをすれば、隣のおばちゃんなんかは、バチンとひっぱたく。子育ての知識なんて持っていないけれど、子どもはそれなりに育っていく。

まわりには、いろいろな仕事をやっているおじさんがいて、子ども心に、「大人になるということは、こういう仕事ができる人間になることなんだ」というイメージを持てた。

たとえば、大工の仕事もする暖簾職人がいて、真っ白な暖簾のれんが、魚が飛び跳ねているような絵が入った暖簾に変わっていく。カンナを削るとシャーッと出てくる。いつも見ていると、「おい、やるか」なんて言ってやらせてくれる。全然できないけど、何でもマネしてやったんです。

家は仕事を手伝われる場所でした。お袋は足が悪く、風呂焚きや買物は全部ぼくの仕事。それによって自分が役に立っていることを実感しました。

つまり、子どもは地域で上手に放牧され、仕事の世界が豊かにあり、家庭では団欒の時間もだんらんあった。放牧されて走りまわることで足腰がしなやかになり、集団で遊ぶことによって社会性が育つ。あるいは企画する力が培われる。仕事をするなかでは、さぼれば叱られる、最後まで真剣にやるしかない。それによっていろいろなものを身につける。人間を育てるということは、そういうことの積み重ねのように思うんです。

永戸

私も、親が神戸から戦争疎開して、そのまま居着いた丹後（京都府）の海っぺりで生まれ育ったということもあって、そういう地域の力を実感します。しかも、その力は学校にも通用していた。

子育ては本質的に地域がやるべきこと

だから本当の意味での教育は、人の、日常普段にある営みも含めた、自然界の力から生まれてくるように思うのです。

ところが今はどうなっているか。高層ビルがどんどん建ち、人口が急増している東京のある地域でワーカーズが学童クラブを運営することになり、地域懇談会を開いたとき、民生委員や老人クラブ、郵便局で40年も勤めたという人たちが集まってくれた。

この人たちは、近くの、昔からの街に住んでいて、「こんなコンクリートばかりの街で、子どもはどうし

て育つのか」「私なら到底、育てられない」と語っていた。しかし、だからこそ「なんとかしなければ」という思いも強いんです。

基礎力育てた「放牧、仕事、団欒」あちこちにみんなの「たまり場」を

汐見

そうですね。これまでは、生活そのものが子どもをあるレベルまで育てたんです。人類史的にずっとそうだった。ところが今、放牧と仕事と団欒、3つともなくなってしまった。

ほっといても育った部分がなくなってしまう、一から十まで親が子どもを育てないといけない。だけど、そんなことできるわけがない。集団でいるから社会性が育つのに、集団でいないのに、どうやって育てるというの。

生活の中で「3割引き」とかを実感していなければ、3年生になっても4年生になっても「3割って何？」ということになる。だから、学校の教師も大変です。

永戸

ほんとにそうだと思う。心を病む教師もすごい割合ですよ。

汐見

ベースになるものがうまく育っていないので学力も下がって当たり前なんです。

地域と結び地域に学ぶ

永戸

そういう社会状況のなかで、私たちは子育ての事業に取り組んできたわけですが、重視してきたのは「地域」です。

7、8年前、子育ての仕事に取り組みはじめた頃のことですが、「自分は専門職として子育ての仕事をしている。ワーカーズコープの運動をしにきたんじゃない」という若い学童



保育指導員がいました。頭にきて、「子育てなら、あなたより保護者や地域の人たちの方がよほど専門家だ」とやりあったんです。

学校を出て1、2年のあなたが、その仕事の主人公になるために親や地域から学ばないでどうするんだ、と言いたかった。

今では、地域と結び、地域に学ぶ典型も生まれています。

東京の米軍基地の近くにある児童館には、朝も昼もご飯をまともに食べていないと思われる子どもたちが来る。地域懇談会を開いて、そのことを伝えたら、万引きで困っていたスーパーの店長も「いたずらだと思っていたが、そんなことが……」と驚き、地域ぐるみの炊きだしにつながった。

墨田区のある地区では、子ども会がなくなり、地域の餅つきもやらなくなった。児童館が餅つきを引き継ぎ、餅のつき方も含めて地域の人たちに教えてもらい、関わってもらいながらやった。映画「ワーカーズ」(6月9日、完成試写会)にそのシーンも出てきます。

ところが、児童館や学童クラブが地域懇談会をやろうとしても、役所がやめさせようとするケースも多い。ワーカーズが保護者や地域の人たちと結びつくことを嫌がるんですね。

今、子育てのところで何が起きているかを地域の人ほとんど知らない。知ったら、何でそんなことになるの、ということになって、役所にもいろいろ言うようになる。今は、ワーカーズなどが子育ての仕事をしていますが、本質的に、子育ては地域や利用者が主人公になってやるべきことであり、地域が動くのは当たり前のことなのに。

汐見

市民がいろいろやることへの恐怖と不安みたいなのがあるんでしょうね。

もう一つ自由な空間を

永戸

だから、児童館などの委託や指定管理の子育て現場だと、もう一つ自由な空間を子どもたちと保護者とでつくることになる。

そうして地域のなかに、しっかり手を結び合う関係をつくっていく。地域が子育てに関心を持つ接点がもう一つつくられて、地域の人たちが日常的にもっと力を出す場ができたらどうなるか。

汐見

親や子ども、じいちゃん、ばあちゃんなどがいっしょに暮らすところが地域なんです。ところが幼稚園や保育園でも、小学校に入っても、同い年の子どもとしか付き合いがない。本当におかしな社会です。

永戸

学校も地域にガードをはり、事件が起こらないようにし、事件が起こったら言い訳をする。学童クラブや児童館の仲間が学校に相談しても、「うちとは関係ない」と、応えてくれないところも少なくありません。ワーカースコープのリーダーは、こんなことでも格闘せざるを得ないのですが、その格闘がリーダーを育てているし、リーダーたちがしっかりした方向性をもって、どんどん地域に出て行き、地域で子どもを育てることに共感する人たちといろいろなことをやるようになれば、地域の人たちに関わってもらい流れが本物になる。

子育てのためにも、地域をどうしたらよいかをみんなが考え、再生していくこと。同時に、大人や親自身が学ぶ、ということがなければ、と思うんです。

教育学は「まちづくり学」

汐見

同感です。ぼくは教育哲学という分野に入ったのですが、斎藤茂男さんの『父よ母よ！』という本をみんなで読むなど、母親たちと勉強会を重ねるなかで、この親たちといっしょにやっていくと、少しずつ日本の教育を変えていくことができるのではないかと感じ、教育学というのは、結局、「まちづくり学」なんだという思いを強く持つようになったのです。

ルソーも、教育とは「社会づくり」であり、「人づくり」である、という趣旨のことを書いています。その「人」は、みんなが幸せになる共同体づくりを、自分の責務として考える人間なのです。

東京、ロンドン、パリで子育てを体験した藺部容子さんは、『子供の生きる国 | 産んで育てて、ニッポン・イギリス・フランス』という面白い本を出しています。



子ども3人を連れて駅の階段を上ろうとすると、ヨーロッパでは、誰かが「バギーをお持ちしますよ」と助けてくれるが、東京では「朝のラッシュ時に、なぜ子どもを連れて電車に乗るのか」という顔をされる。

結局、父親の長時間労働を克服しないといけない。「子どもが小さいあいだは、週に3日以上残業してはいけない」というくらいの法律をつくれば、子育ての環境は全然違ってきます。父親どうしの交流もできる。

また地域のあちこちに、たまり場をつくり、みんなが集まって何かやっているというようにすることだと思う。そこに集まるいろいろな人たちを見て、子どもたちも育っていく。

永戸

いま、ケアの総合的な拠点を事業本部に1カ所ずつつくるという方針を出しています。高齢者の介護に焦点を当てながらも、子どもも若者も来る、野菜づくりも診療所もある。そういうところをみんなの思いでつくりたい。

汐見

小さなまちづくりですね。縦割りは大事だけれども、必ず横でもつなぐようにしないと。

沢山の子どもたちが

永戸

ワーカーズコープ山口（光中高年事業団）では、若者が先頭に立って、田んぼを借り、米づくりに挑戦しました。最初、地域の人たちは冷ややかでしたが、3年目の今は、「もっと田んぼを貸そう」といってく

れる。

そうなったきっかけの一つは、田んぼにたくさんの子どもが来たことです。保護者もくる。草とりにも稲刈りにもくる。収穫したら餅つきもやった。

鹿児島市の医療生協病院で清掃の仕事をしている若い男性組合員や生協物流現場の組合員らが同様のことをやりはじめ、婚活事業まで始めた。

「菜の花プロジェクト」をつくり、各地で菜の花などを植えていますが、どこでもたくさんの子どもたちがやってくる。

汐見

すごい。

永戸

高齢者の介護も隔離、生活保護受給者も地域から隔離。そういう政策は行き詰まっています。ワーカーズは、埼玉県や静岡県、札幌市などから生活保護受給者の自立・就労支援事業を請けていますが、地域での支え合いを広げ、自治体がびっくりするくらいの成果をあげています。公的訓練・就労事業を作り、働く意思も能力もある人が、生活保護を受けずにすむようにすれば、生活保護の予算を減らし、震災復興に回すことだってできるではないか、ということも提起しているんです。

問われる「市民主体」

汐見

いま、「子ども・子育て新システム」が検討・推進されていますね。これに対し、民営化にはハナから反対という人もいます。ぼくは、「企業が参入するのは反対だ」「企業だから悪い」というような単純なものではない、と言ってきました。

歴史的に見ると、戦前、東京都が公立保育所をつくったときにはみんなが猛反対した。「国家が保育所をつくるなんていうのは、何か企んでいるに違いない」と。利用する庶民が、できる限り経営に接近できるか。そこが問題なんです。だから、コストカットのための民営化は困るけれども、理念としては、公営よりむしろ民営を目指すべきではないか、と言っているんです。

永戸

民営化が市場主義化ということであってはいけない。民（たみ）の、つまり主権者たる市民主体・市民参加のあり方が問われるのだと思う。

汐見

そう。ぼくはそういう民営化を目指せと、岩波ブックレット『保育所民営化を考える』に書いたんですが、ワーカーズコープのようなやり方をすれば、「これが民営化ではないか」とはっきり出る。すごくわかりやすくなる。ところが、「汐見は民営化に賛成なのか、反対なのか」と問い詰めてくる人がいる。

進歩か反動か、革新か保守か、敵か味方か、資本か労働かという二分法の世界は成り立たなくなった。実際はその中間でしかなくて、どっちをとろうかと悩んで悩んで決めていくのが市民なんだから、二分法だけでは世の中、済まないと思うのですが。

永戸

私は、ソビエト、東欧がつぶれた時、これと対峙していたアメリカもつぶれる運命にある、と言ったのですが、二分法で事を仕切ることがいかに犯罪的かということをいろいろ思い知らされてきました。

学校法人持って新展開

汐見

ところで、ワーカーズコープは学校法人は持たないのですか。学校法人の中でつぶれそうなところを買うことも含めて、新しい展開を考えたら。

永戸

学校法人があると、東北の再生でもいろいろなことができる。そういうところから発する力、地域でこだまするものをつくらなければと思っています。

汐見

先日、大手証券会社が三多摩で社会貢献活動としてやっている、リタイアした人たちの学習会に呼ばれたんです。ほとんどが団塊のおじさんたち。

話が終わると「なぜ定年が60歳なんですか」「われわれは働きたくてしょうがない。知恵も体力もあるのに、なぜ働かせてくれないんだ」と質問がでた。「それなら自分で会社をつくりなさいよ」と答えるしかなかったのですが、「都市農業をやって、ちゃんと利益をあげてほしい。トマトでも茄子でも、都市でこんなにうまいものがつくれるのかと競争しあったら、絶対にやりがいが出てくる」と言ったら、すごく乗ってきた。

労働者協同組合のことが知られていき、「こういうかたちで仕事をつくれますよ」となれば、わーっと広がる気がします。

永戸

協同労働の協同組合の法律ができれば、ワーカーズコープ方式でやってみたい、という相談は企業からも労働組合関係者などからもあるんです。日本人は法律がないからと躊躇ちゅうちょするけど、「必要なことは市民がやってしまおう」という方向に、ようやく動き出している感じもします。 そんなことも含めて、いろいろ力を貸してください。

汐見

こちらこそ。

(4月6日、池袋の労協連本部で)

[⇒Link](#) 

[総合](#)  2012-07-24 15:34